3 防水改修工事

5 アスファルト防水

屋根保護防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～4)(3.3.5)(表3.3.3～6)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート	立上り部の保護
・P2A	・A-1 ※A-2 ・A-3			※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上 ・	※乾式 保護材 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え ・
・P1B	・B-1 ※B-2 ・B-3				
・P2AI	・AI-1 ※AI-2 ・AI-3		(材質)※JISA9511によるA種押出法ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板　3種b(ｽｷﾝ層付) (厚さ)・25mm　・50mm	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m2程度 ・	
・P1BI ・T1BI	・BI-1 ※BI-2 ・BI-3				

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による　・
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
　※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による　・
平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ　こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
　床ﾀｲﾙ張り　※水下　60mm以上　・

・乾式保護材
　窯業系ﾊﾟﾈﾙ：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ養生したもの。
　金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

屋根露出防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～4)(表3.3.7～9)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G	備考
・M4C	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4	図示		・ ・製造所の指定による。	・ ・製造所の指定による。	・	
・M3D ・P0D	・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4			・ ・製造所の指定による。	・ ・製造所の指定による。	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ※DI-2		(材質) ※JISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの ・ (厚さ)・25mm　・	・製造所の指定による。	・製造所の指定による。	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない

脱気装置の種類及び設置基準
　※アスファルトルーフィング類製造所の指定による
　・脱気装置の種類：　　、設置数量：　　個/㎡
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示

屋内防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～4)(表3.3.10)

工法	種別	施工箇所	備考
・P1E ・P2E	・E-1 ※E-2		保護層　・設ける

屋上排水溝　※図示

4 改質アスファルトシート防水

(3.1.4)(表3.1.1)(3.4.2～4)(表3.4.1～表3.4.3)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	高日射反射率防水の適用G	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J3			・	
・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J2			・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J2 ・AS-J4			・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		(材質) ※JISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの ・ (厚さ)・25mm　・	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
　※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
　※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
　※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
脱気装置の種類及び設置数量
　※改質アスファルトシート製造所の指定による
　・脱気装置の種類：　　、設置数量：　　個/㎡
押え金物
　※改質アスファルトシート製造所の仕様による

5 合成高分子ルーフィング防水

(3.1.4)(表3.1.1)(3.5.2～4)(表3.5.1～2)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料	高日射反射率防水の適用G	
・P0S ・S4S	・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3			※ｶﾗｰ ・ｼﾙﾊﾞｰ	・ ・ ・ ・ ・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・S3S	・S-F1 ・S-F2			※ｶﾗｰ ・ｼﾙﾊﾞｰ	・ ・	脱気装置 ・設ける ・設けない
・M4S	・S-M1 ・S-M2 ・S-M3			※ｶﾗｰ ・ｼﾙﾊﾞｰ	・	脱気装置 ・設ける ・設けない
・P0SI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・SI-F1 ・SI-F2	図示	(材質) ※JISA9511によるA種ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの ・ (厚さ)・25mm　・	※ｶﾗｰ ・ｼﾙﾊﾞｰ	・ ・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
	・SI-M1 ・SI-M2		(材質) ※JISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はA種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板 ・ (厚さ)・25mm　・		・ ・	

ルーフィングシートの種類及び厚さ
　※改修標準仕様書表5.3.1から表5.3.2
　・
絶縁用ｼｰﾄ　※発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ　(3.5.2)
脱気装置の種類及び設置数量
　※ルーフィングシート製造所の指定による
　・脱気装置の種類：　　、設置数量：　　個/㎡
既存防層水下地がPCｺﾝｸﾘｰﾄ部材の場合
　目地処理　・行う(工法：　　)　・行わない
　入隅部の増張り　・行う(S-F1、SI-F1の場合)　・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの張付け
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　　※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
　・適用しない

6 塗膜防水

(3.1.4)(表3.1.1)(3.6.2～4)(表3.6.1)(表3.6.2)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料	高日射反射率防水の適用G	備考
・P0X	※X－1 ・X－2	図示	※ｶﾗｰ ・ｼﾙﾊﾞｰ	・	脱気装置　・設ける　・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ　・設ける　・設けない
・L4X	・X－1 ※X－2				脱気装置　・設ける　・設けない
・P1Y	※Y－2				保護層　・設ける　・設けない
・P2Y	※Y－2				保護層　・設ける　・設けない

脱気装置の種類及び設置数量
　※主材製造所の指定による
　・脱気装置の種類：　　、設置数量　　個/㎡

8 シーリング

ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類、施工箇所　(3.7.2)(表3.7.1)
下記以外は(表3.7.1)による

施工箇所	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(記号)

目地寸法　(3.7.3)
　打継ぎ目地　※幅20mm×深さ10mm以上　・
　ひび割れ誘発目地　※幅20mm×深さ10mm以上　・
　ｶﾞﾗｽ回り目地　※幅　5mm×深さ　5mm以上　・
　その他の箇所　・幅　mm×深さ　mm以上　・
目地位置　※図示

ｼｰﾘﾝｸﾞ改修工法の種類　(3.7.4～7)
　・ｼｰﾘﾝｸﾞ充填工法
　・ｼｰﾘﾝｸﾞ再充填工法
　・拡幅ｼｰﾘﾝｸﾞ再充填工法
　・ﾌﾞﾘｯｼﾞ工法　・ﾎﾞﾝﾄﾞﾌﾞﾚｰｶｰ張り　・行う　・行わない　(3.7.7)
　　・ｴｯｼﾞﾝｸﾞ材張り　・行う　・行わない
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の試験　(3.7.8)
　※簡易接着性試験　・引張接着性試験

9 とい

といの材種　・配管用鋼管　・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　(3.8.2、3)(表3.8.1)
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ

種別	施工箇所
・ろく屋根用(・縦型　・横型)	
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ用	
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ中継用	

ﾛｯｸｳｰﾙ保温筒及びﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温筒のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
　※規制対象外　・
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法　※図示　・
鋼管製といの防露巻き　※改修標準仕様書表3.8.5による　・
たてどい受金物の取付け　※図示
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝの取付け
　※水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にﾓﾙﾀﾙを充填

10 アルミニウム製笠木

(3.9.2)(表3.9.1)(表5.2.2)
種類　・押出し250形　・押出し300形　・押出し350形　・図示
　　・板材折曲げ形(板厚さ(mm)　※2.0　・　　)
表面処理　・A-1種　※B-1種　・B-2種(・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ)　(3.9.2)

既存笠木等の撤去　・行う(範囲　※図示)
(3.9.3)
笠木の固定金具の工法等
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　　※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
　・適用しない

4-1 外壁改修工事(共通事項・材料)

1 施工数量調査

調査範囲　・外壁改修範囲　・図示の範囲　(1.5.2、3)
調査内容

ひび割れ	ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
浮き	ﾓﾙﾀﾙ塗仕上げ及びﾀｲﾙ張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。
はく離 はく落	ｺﾝｸﾘｰﾄ表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、ｺﾝｸﾘｰﾄまたはﾓﾙﾀﾙ表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。

既存部分の破壊を行った場合の補修方法　・図示　・
調査報告書の部数　・2部　・

2 樹脂注入工法用エポキシ樹脂

※JIS A 6024(建築補修用注入ｴﾎﾟｷｼ樹脂)　(4.2.2)
　ひび割れ幅　0. 2～0. 5mm未満　※低粘度形
　ひび割れ幅　0. 5～1. 0mm未満　※中粘度形

3 アンカーピン

ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ　(4.2.2)
　※ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ﾈｼﾞ切り加工したもの
　・
注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ　(4.2.2)
　※ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)呼び径6mm　・

4 可とう性エポキシ樹脂

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

5 パテ状エポキシ樹脂

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

6 タイル張替え工法用接着剤

適用箇所　張替え面積が比較的小さく、下地ﾓﾙﾀﾙが健全な箇所に用いる　(4.2.2)
接着剤の種類　JIS A 5557(外装ﾀｲﾙ張り用有機系接着剤)による
　　一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系又は、ｳﾚﾀﾝ樹脂系とする

7 エポキシ樹脂モルタル

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

8 ポリマーセメントモルタル

(品質・性能)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

9 ポリマーセメントスラリー

(品質・性能)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

10 既製調合モルタル

ﾓﾙﾀﾙ下地としたﾀｲﾙ工事に使用する張付け用ﾓﾙﾀﾙとして、ｾﾒﾝﾄ、細骨材、混和材等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。　(4.2.2)
(品質・性能・試験方法)　建築材料等品質性能表による

12 タイル

タイルの形状、寸法等　(4.2.2)

主な用途による区分	形状寸法(mm)	再生材の適用G	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
見本焼き　・行う　・行わない
試験張り　・行う　・行わない
再生ﾀｲﾙの主材　陶磁器質ﾀｲﾙで再生材利用率は原材料の重量比で20%以上使用されていること。G
　　ただし、再生材料は通常利用している同一工場からの廃材は除くものとする。

4-2 外壁改修工事(コンクリート打放し仕上げ外壁改修)

1 ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法(ひび割れ幅0. 2～1. 0mm未満の場合に適用)　(4.3.4)

種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)
※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	・130
・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・ 50～100	・ 40　・
・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・ 70　・
	0.5以上～1.0以下	・150～250	・130　・

ｺｱ抜き取り検査　・行う(抜取り部の補修方法：　　)　・行わない　(4.3.4)

・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法(ひび割れ幅1.0mm以上の場合に適用)　(4.2.2)(4.3.5)
　・ｼｰﾘﾝｸﾞ材　充填材料　※1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
　　ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの充填　・行う　・行わない
　・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂
・ｼｰﾙ工法(ひび割れ幅0.2mm未満の場合に適用)　(4.2.2)(4.3.6)
　・ﾊﾟﾃ状ｴﾎﾟｷｼ樹脂　・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂

2 欠損部改修

鉄筋等の防錆処理　・行う(処理方法　※図示)　・行わない
※充填工法　(・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)　(4.2.2)(4.3.7)

4-3 外壁改修工事(モルタル塗り仕上げ外壁改修)

1 ひび割れ部改修工法

既存モルタル塗りの撤去　(4.4.2)
　※行わない　・行う(範囲　※図示　・　　)
　撤去後の処置　「4-2.1ひび割れ部改修工法」の後、「4-4.2欠損部改修」を行う。

・樹脂注入工法　(4.4.5)

種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)
※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	・130
・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・ 50～100	・ 40　・
・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・ 70　・
	0.5以上～1.0以下	・150～250	・130　・

ｺｱ抜き取り検査　・行う(抜取り部の補修方法：　　)　・行わない　(4.3.4)

・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法(ひび割れ幅1.0mm以上の場合に適用)　(4.2.2)(4.4.6)
　・ｼｰﾘﾝｸﾞ材　充填材料　※1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
　　ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの充填　・行う　・行わない
　・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂
・ｼｰﾙ工法(ひび割れ幅0.2mm未満の場合に適用)　(4.2.2)(4.4.7)
　・ﾊﾟﾃ状ｴﾎﾟｷｼ樹脂　・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂

2 欠損部改修

鉄筋等の防錆処理　・行う(処理方法　※図示)
・充填工法　(・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)　(4.2.2)(4.4.8)
・ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法　既製目地材　・使用する(形状　※図示)　(4.2.2)(4.4.9)

3 浮き部改修

既存ﾓﾙﾀﾙの撤去　・行わない　・行う(範囲　※図示、・　　)　(4.4.4)
撤去後の処置　下記　・「充填工法」　・「ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法」を行う
(4.4.10～15)

改修工法の種類	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/m2) 一般部	指定部	注入口の箇所数(箇所/m2) 一般部	指定部	充填量(ml/箇所)	注入量(ml/箇所)
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・	
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※25 ・
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※50 ・
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・		※50 ・

充填工法　(・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)　(4.2.2)(4.4.8)
ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法　既製目地材　・使用する(形状　※図示)　(4.2.2)(4.4.9)

4-4 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁改修)

1 ひび割れ部改修工法

既存ﾀｲﾙの撤去　(4.5.2)
　・行わない
　・行う　撤去範囲　※図示(・下地ﾓﾙﾀﾙまで　・張付けﾓﾙﾀﾙまで　・ﾀｲﾙのみ)

撤去後の処置
　・「4-2.1ひび割れ部改修工法」の後、「4-4.2欠損部改修」を行う。
　・「4-3.1ひび割れ部改修工法」の後、「4-4.2欠損部改修」を行う。

・樹脂注入工法　(4.5.5)

種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)
※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	・130
・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・ 50～100	・ 40　・
・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・ 70　・
	0.5以上～1.0以下	・150～250	・130　・

(4.3.4)(4.5.5)
ｺｱ抜き取り検査　・行う(抜取り部の補修方法：　　)　・行わない

・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法(ひび割れ幅1.0mm以上の場合に適用)　(4.5.6)
　・ｼｰﾘﾝｸﾞ材　充填材料　・1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
　　ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの充填　・行う
　・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂

2 欠損部改修工法

・ﾀｲﾙ部分張替え工法　(4.2.2)(4.5.7、8)
　接着剤の種類
　　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ
　　・JIS A 5557による一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系
　　・JIS A 5557による一液反応硬化形ｳﾚﾀﾝ樹脂系
・ﾀｲﾙ張替え工法
　接着剤の種類
　　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ
　　・JIS A 5557による一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系
　　・JIS A 5557による一液反応硬化形ｳﾚﾀﾝ樹脂系

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
　位置　※改修標準仕様書表4.5.1による　・

ﾀｲﾙ張り下地等の均しﾓﾙﾀﾙの接着力試験　・行う　・行わない

・ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによる陶磁器質ﾀｲﾙ張り
　ﾀｲﾙ張りの工法
　　外装ﾀｲﾙ　・密着張り　・改良圧着張り　・改良積上げ張り
　　外装ﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ　・ﾏｽｸ張り　・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り
・有機系接着剤による陶磁器質ﾀｲﾙ張り
　ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類
　　打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
　　伸縮調整目地その他の目地　※変成ｼﾘｺｰﾝ系　・

3 浮き部改修

既存ﾀｲﾙの撤去　(4.5.4)
　・行わない
　・行う　範囲　(※図示　・　　)
　　切り込み深さ(・下地ﾓﾙﾀﾙまで　・張付けﾓﾙﾀﾙまで　・ﾀｲﾙのみ)
撤去後の処置
　・「4-4.2欠損部改修」を行う。
(4.5.9～15)

改修工法の種類	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/m2) 一般部	指定部	注入口の箇所数(箇所/m2) 一般部	指定部	充填量(ml/箇所)	注入量(ml/箇所)
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・	
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※25 ・
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※50 ・
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・		※50 ・
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ﾀｲﾙ固定工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・	

4 目地改修

・目地ひび割れ部改修工法　(4.2.2)(4.5.16)
・伸縮調整目地改修工法
　伸縮調整目地　位置　※図示　・
　　寸法　幅(　　)mm　深さ(　　)mm